

● 森づくりのコンセプト

# 使い方は“マッシュブ”

地域資源の積極的活用により森づくりを支えるため、木材の新しい使い方を提案しています。使い方や使う場所に応じて不必要な加工をしない利用方法を通じて、ユーザーの価値観をアップデートし、多様で有機的な「ありのまま」の木材の価値を伝えます。



## ポイント 1 気楽に木を日常に

木材は本来、多用途で使えるものですが、現在の生活環境の中ではあまり直接接触の機会はありません。マッシュブ（大きくて重量感がある塊）な木材のもつ「かたち」「手触り」をそのまま空間利用することで、山とのつながりの実感につながっています。



▲都市内への実装により目で身体で木材を感じてもらおう取り組み

## ポイント 3 自分たちで製作を

新しい使い方の開発や実装活動のほとんどは、それを利用するユーザーやまちの人たちとの協働施工により展開しています。自らの手で製作することにより、木材の加工容易性や多様な特質を身体的に理解するとともに、木でものをつくる楽しさを知ってもらいます。



▲子供と大人が混ざり合って製作に取り組む

## ポイント 2 ありのままに木を

純粋な工業材料ではない木材の有機的な価値をなるべく活かし、使う場所に応じてなるべく塗装・防腐・人工乾燥などの加工をせず、ありのままに木材を利用します。

加工度の少ない木材を利用することで、歩道からベンチへ、ベンチから内装へ、都市の中での木材の再利用の循環を形成します。



▲屋外利用時には、事前に人工乾燥するのではなく、利用しながら乾燥

## ポイント 4 本当の地産地消を

都市部で使用する木材のほとんどは、地域の森林（豊田市）より、トラックで直送し、お互いに顔が見える産地直送を実現しています。特別な製材・加工をしないことで、大手メーカーや建設業者を挟まず、ユーザーと供給者の直接交流を実現しています。



▲錦二丁目では使用する木材を地域の森林より直接搬送